

# 第8回糸魚川市教育委員会定例会会議録

(平成30年6月27日)

- 1 日時 平成30年6月27日(水) 午後3時から
- 2 会場 糸魚川市役所 203.204会議室
- 3 出席委員 教育長 田原 秀夫  
教育長職務代理者 永野 雅美  
委員 楠田 昌樹  
委員 轟本 修一  
委員 谷口 一之
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員以外の出席者  
教育次長兼こども課長 井川 賢一  
こども課 課長補佐 磯野 豊 係長 田代 正人  
こども教育課 課長 石川 清春 課長補佐 松村 伸一  
生涯学習課 課長 小島 治夫  
文化振興課 課長 磯野 茂 課長補佐 木島 勉  
博物館 館長補佐 中村 淳一  
市民会館 館長補佐 猪股 和之  
書記 こども課主査 仲谷 貴子
- 6 報告  
報告第 17号 平成30年度全国標準学力検査(NRT)の結果と今後の課題について  
報告第 18号 各課・機関所管事項について
- 7 付議案件  
議案第 46号 平成29年度の教育に関する事務の点検及び評価に係る外部評価委員の委嘱について  
議案第 47号 糸魚川市外国語指導助手の任用について
- 8 会議録署名委員の指名 2番 楠田委員

田原教育長

これより第8回教育委員会定例会を開会する。

先ほど、フォッサマグナパークを視察していただいた。8月1日に竣工式を行い、市民の皆さんに見ていただくことになる。維持管理をしっかりと行い、多くの皆さんから見ていただけるように努めていく。

田原教育長

報告第17号平成30年度全国標準学力検査（NRT）の結果と今後の課題について、事務局の説明を求める。

石川課長

（資料に基づき説明。）

田原教育長

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

鷹本委員

実績の推移を見ると、特に小学校の算数は1年ごとに伸びている。陰山メソッドの効果ではないかと感じている。実績を高く評価したい。残念なのは、小学校での学力が中学校へ進学し、進級するにしたがって、低下していくことである。ここをどう分析して、学習に結び付けていくか。できるだけ早く中学校版の陰山メソッドに取り組んでいくことが必要だと考える。

学校訪問からも中学校長が危機感を感じながら学力向上に向けて取り組んでいる様子が見える。教育委員会と学校現場で意見を出し合う中で取り組まなければならない。

石川課長

委員からご指摘のあった中学校における中学校版の陰山メソッドが見つけられずにいることは事実である。教科部の連携をとる必要を感じている。

中学校において学力が低下する要因は、家庭学習時間の短さである。これは数字でもはっきりと出ている。これに対して各中学校でどのように取り組むかを検討しているところであるが、教育委員会事務局も一緒に考えていきたい。

楠田委員

市の総合計画では、偏差値の目標値を小学校6年で55.0としているが、学校別にみた時に上回っている学校はあるのか。

石川課長

学校名の公表はできないが、上回っている学校はある。

田原教育長

報告第18号各課・機関所管事項について、事務局の説明を求める。

井川教育次長

各課・機関所管事項報告に先立ち、大阪北部地震発生に伴う施設緊急点検について報告する。

6月18日の大阪北部地震の発生に伴い、事務局職員による所管施設に点検を6月19日から21日の3日間で行った。この点検は一

次点検として行い、その中で危険と思われる施設については、6月22日・25日の2日間で庁内の技術職員が点検を行った。

その結果、教育委員会事務局が所管する109施設のうち、市所有で7施設、隣接の民間所有で8施設のブロック塀に危険を認めた。

市所有施設7施設のうち、小学校1施設のブロック塀については早急に撤去を行う予定である。また、生涯学習課所管施設の6施設は、主に地区公民館・支館である。これらについても撤去に向けて調整を進めている。

施設に隣接している民間所有のブロック塀については、民間所有であることから、その対応について所有者に説明をしていきたい。

ブロック塀以外で確認が必要な施設については、小学校にある石碑の高さが高いものがあり、安全性の確認がとれるまで付近を立ち入り禁止としたものである。

続いて、通学路の点検についてである。

地震発生当日の6月18日に通学路の緊急点検、危険箇所の回避、児童・生徒への指導についてこども教育課から各校長に要請したところである。通学路の危険箇所については、こども教育課に報告することになっている。

通学路だけに限らず、市内のブロック塀の所有者の大半は民間所有のものであることから、広報等でも周知し、所有者の責任において対応をお願いしていくものである。

磯野課長補佐  
石川課長  
小島課長  
木島課長補佐  
小島課長  
中村館長補佐  
猪又館長補佐

こども課 所管事項報告  
こども教育課 所管事項報告  
生涯学習課 所管事項報告  
文化振興課 所管事項報告  
図書館 所管事項報告  
博物館 所管事項報告  
市民会館 所管事項報告

田原教育長  
鶴本委員

今ほどの説明について、ご質疑等はないか。

こども教育課から上越教育事務所の管理主事訪問について報告があったが、各学校にどのような指導事項があったか。

石川課長

昨年度から大きく変更した点があった。これまでは全職員一斉に管理主事にあいさつを行っていたが、働き方改革の件もあり、なくなった。

鶴本委員

指導事項は主に子どもたちの安全面についてであった。

教育懇談会についてだが、これまで学力向上、キャリア教育、特別支援教育などにテーマを絞って行っていた。今年度は文科省

から指導者をお呼びすることになっている。今回の参加対象者はどのようになっているか。また、第2回の教育懇談会の内容はどのようになっているか。

石川課長

また、今回は中学校区単位での分科会も開催される。同じ参加者同士の懇談会では新しいものが出てきづらいので、参加者を拡大していく、中学校区単位での懇談をより深くしていくという姿勢が必要である。今後の展望はどのようになっているか。

今年度の第1回教育懇談会については、国で努力義務となっているコミュニティ・スクールについて行う。市内では半数がコミュニティ・スクールに移行している。また、今後はすべての学校において移行する予定となっている。仕組みや進め方についてなかなか理解が進まない面もあるため、前段では文科省の担当者からわかりやすく講演をしてもらい、後段では、中学校区単位でまとまって、地域の子どもたちにどんなことができるのか話し合ってもらおうこととしている。

参加者は、すでにコミュニティ・スクールへの移行が済んでいる学校については学校運営協議会委員、これから移行する学校については学校評議員の皆さんに声をかけている。範囲は狭いかもかもしれないが、実際に核となっていく方たちにターゲットを絞っている。

第2回目の教育懇談会の内容については、現時点では未定である。校長会とも相談してテーマを決めたい。

田原教育長

議案第46号平成29年度の教育に関する事務の点検及び評価に係る外部評価委員の委嘱について、事務局の説明を求める。

井川教育次長

平成29年度の教育に関する事務の点検及び評価に係る外部評価委員の委嘱について、高橋守さんをお願いしたいものである。高橋守さんには平成28年度から外部評価委員に委嘱している。3回目となる。

委嘱期間は、平成30年8月1日から平成30年12月31日までである。

田原教育長  
委員

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

(「なし」の声あり。)

田原教育長  
委員

それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。

(「異議なし」の声あり。)

田原教育長

異議なしと認め、承認する。

**原案のとおり承認**

田原教育長

議案第47号糸魚川市外国語指導助手の任用について、事務局の説明を求める。

石川課長

糸魚川市外国語指導助手の任用についてである。任用する者および任用期間については、資料のとおりである。昨年度からの継続の者が2名、新たに任用する者が4名、計6名の任用を行いたい。各中学校区に1名と小学校での外国語の教科化に対応するため2名を配置している。

永野教育長職務代理者

昨日、ALT全員で打ち合わせを行った。ALTからは事前に打合せを行った上で授業に臨みたいという話があった。また、学校によってALTの授業への関わり方も違っていたので、統一的な関わりができるように学校にも伝えていきたい。

石川課長

ALTの任用のサイクルや期間などは決まっているのか。

JETプログラムに登録している人を任用することになるが、期間については継続する人もいれば、1年で帰国される人もいる。任用の上限は5年となっている。ALTを職業ととらえている人もいれば、スキルアップのためのステップと考えている人もいる。その人の考え方によるものが大きい。

谷口委員

小学校にも配置されることになっているが、今後も増員して配置するのか。計画はどのようになっているか。

石川課長

増員できればよいのだが、単純に増員するということにもならない。現在は保育園・幼稚園にも訪問しているが、その内容も見直した中で検討していきたい。

田原教育長  
委員

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

(「なし」の声あり。)

田原教育長  
委員

それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。

(「異議なし」の声あり。)

田原教育長

異議なしと認め、承認する。

**原案のとおり承認**

## 10 その他

靄本委員

今日、フォッサマグナパークを見学させていただいた。施設管理として、来訪者の数をどのように把握しているのか。

磯野課長

改修する以前からカウンターを設置している。シーズン中は通路にカウンターを設置している。カウンターのセンサーに反応するとカウントされる。ほとんどの方は往復しているので、計測値の半分を来訪者として考えている。

靄本委員

屋外施設としてカウンターが設置されているところはあるか。

井川教育次長

青海地域のレンガトンネルについては、感応式の電灯があり、電灯が点いた数で来訪者をカウントしている。年間で16,000人くらいである。

屋外施設については、そういったものがないと訪問者のカウン

鶴本委員

トは難しい。

施設の活用を検討する意味でも、データをとることは必要なことである。フォッサマグナパークの来訪者数も今後、情報提供してほしい。

15：55 終了

#### 11 次回教育委員会定例会開催日

平成30年7月24日（火）午後2時より